「特別の教科　道徳」学習指導案

日時　令和元年　９月２５日（水）第５校時
第　３学年２組　３８名
授業者　　原　豊

＜目指す児童像＞
身の回りの物事についてよく考え、自分の考えをもって行動できる児童

１　主題名　　『本当の友達』（Ｂ　友情、信頼）
教材名　　「なかよしだから」（出典：東京書籍　『あたらしいどうとく３年』）

２　主題設定の理由（指導観）

（１）ねらいとする価値　（価値観）

中学年の内容項目の友情、信頼では、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」をねらいとしている。低学年の「友達と仲良くし、助け合うこと」から一歩すすめて、「仲よくすること」にとどまることなく、助け合うこと、励まし合うことが大切である。

この時期の児童は、活動範囲が広がり、仲間意識の発達がめざましい。気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。ただ、その反面、友達だからといって、良いことも悪いこともあいまいにして、一緒になって悪いことをしたり、友達の悪い行為を見過ごしたりすることがある。しかし、相手のことを考え、いけない時には、いけないと注意するのが本当の友達である。注意することだけにとどまらず、どうすることが相手のためになるのか、相手のことを考えて、互いを尊重しながら教え合い、助け合っていこうとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

（２）児童の実態（児童観）

本学級の児童は男女ともに仲がよく、休み時間はみんなで外遊びを楽しんでいる。困っている友達に、声をかけたり、助け合ったり姿も見られる。また友達がルールを守っていないと、そのままにせず、注意をすることもある。ただ、その時の言葉がきつかったり、言い方が強かったりして、トラブルになることもある。

また時には、みんな一緒だからという安易な気持ちで、みんなで悪いことをしたり、友達の悪い行動を見過ごしたりすることがある。

本授業を通して、友達についての考えを深めさせ、もっと良い友達になるにはどうすればよいかを考えさせていきたい。

（３）教材について（教材観）

算数の宿題を忘れた「ぼく」が、仲良しの実君に教えてもらうことを思いつく。前日にカーブの投

げ方を教えてあげたから、そのお返しに教えてくれるだろうと考えたのである。ところが、実君に「なかよしだから、なお教えられないよ。」と断られ、本当の友達について考える話である。

宿題を教えてもらえなかった時の「ぼく」の気持ちを想起させ、「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言った実君の言葉の真意に触れていく。本当の友達とは、単にやさしかったり、困っている時に助けてくれたりするだけではないということに気付かせ、ねらいに迫りたい。

３　中学年ブロック分科会の取組

（１）学習指導案の作成において話題になったこと

・導入と終末の扱いについて（心のバロメーター）。

・展開の後半について（発問の内容等）。

（２）学習指導案の作成までの取組

８月　２日（金）学年で内容項目や本時案について検討する。

８月２７日（火）学年と研究主任で、資料分析表を基に発問を精選し、主発問を決めるとともに展開を決める。

８月２８日（水）研究推進委員会で指導案を検討する。

９月１０日（火）事前研究（３年１組）

９月１２日（木）中学年ブロックにて指導案を検討する。

９月１３日（金）研究推進委員会で指導案を検討する。

４　研究主題に迫るための手だて

①「主体的な学び」に導くために

導入の工夫

・導入で、教材文の内容の出来事を、今の自分に置き換えて考えさせ、全体の前で表現することにより、教材文の内容を自分事として考え、取り組ませる。

教材の工夫

・「心のバロメーター」表を使用し、前方に掲示する。

②「対話的な学び」を導くために

発問の工夫

・主発問では、「実さんはどんな気持ちで教えなかったのか」という実さんの気持ちを問わず、「ぼく」の気持ちを問うことにより、「ぼく」が葛藤する様子や本当の友達について、考えるきっかけとする。

③「深い学び」を導くために

終末の工夫

・導入で聞いたこと（仲の良い友達に宿題を見せてと言われたらどうするか）を終末にも聞くことで、教材の内容をより、自分事ととしてとらえ、友達のことをよく考え、大切にしようという態度につなげていく。

５　本時の展開

（１）　ねらい

友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする態度を養う。

（２）　本時の展開

過程		学習活動（○発問 ◎中心発問・予想される児童の反応）	◇指導上の留意点　◆評価（方法）
導入	５分	１　友達について考える。 ○仲の良い友達に、「宿題を見せて」と言われた時、自分だったらどうしますか。 ・仲がよいので、見せてあげる。 ・友達でも、宿題は見せない。	◇前もってワークシートに記入させておく。 ◇「心」のバロメーターに名前を貼らせる。 ◇3 人程度の児童に意見を言わせる。 （バロメーターの両はじ、真ん中等）
展開・前半	２５分	２　「なかよしだから」を読んで、ぼくや実さんの気持ちについて話し合う。 ○宿題を忘れたことに気が付いた時、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。 ・どうしよう。 ・実さんに教えてもらえばいいや。 ○「まだ時間があるじゃないか。自分でやれよ。」という実さんの言葉を聞いて、「ぼく」は、どんなことを考えたでしょうか。 ・どうして教えてくれないの。 ・ぼくたち、友達じゃないか。 ・昨日、カーブの投げ方を教えてあげたのに。 ◎家へ帰ってから、実さんが、「なかよしだから、なお教えられないよ」と言ったそのことについて、ぼくはどんなことを考えたのでしょうか。 ・実さんにきらわれたかな。 ・ぼくも言い過ぎたかな。 ・もしかしたらぼくのために言ってくれたのかな。	 ◇友達だから教えてくれるだろうという、主人公の安易な考えをつかませる。 ◇教えてくれない実への憤りをつかませる。 ◇「ぼく」が葛藤している様子を想起させ、ワークシートに記入させる。 ◇実さんには、「ぼく」のためのことを思う深い考えがある（嫌いで言っているわけではない）ことに気付かせる。 ◇実さんが、「ぼく」に分かってほしかったことに気付かせる。

展開・後半	12分	3　授業を振り返り、「今」の気持ちを考える。 〇仲の良い友達に、「宿題を見せて」と言われた時、自分だったらどうしますか。 見せる ・やっぱり友達だから、助けてあげたい。 ・次はちゃんとやるように伝えて、見せてあげる。 見せない ・いけないことはいけない。 ・友だちだったら、きっとわかってくれる。 ・自分のことは自分でできるようにしないとだめ。	◇実さんの行動を通して、友達について導入時よりも深く考えさせる。 ◇ ◆本当の友達の意味をよく考えて、友達を大切にしようとしているか。 （観察・発言） ◇見せないに偏った場合、友達を助けるのはいけないことなのか投げかけ、よい友達であるために必要なことは何か改めて考えさせる。
終末	3分	4　教師の説話を聞く。	◇たくさんの考え方を尊重するとともに、友達のことについてよく考えたことに自己肯定感をもたせる声掛けをする。

6　板書計画

なかのよい友だちに「しゅくだいを見せて」と言われたらどうしますか。

・友だちがこまっているので見せる。

・宿題は自分でやるべきなので、見せない。

「なかよしだから」

宿題を忘れた時、ぼくはどんな気持ちだったでしょうか。

絵

・実さんに教えてもらえばいいや。

・実さんは教えてくれる。

「まだ時間があるじゃないか。自分でやれよ。」

・どうして教えてくれないの。

・ぼくたち友だちじゃないか。

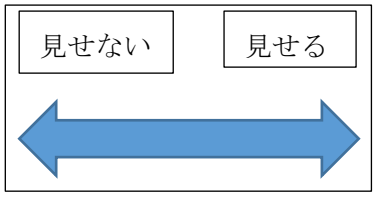
・でも、実さんの言うとおりかな。

家へ帰ってから、実さんがなぜ、「なかよしだから**なお**教えられないよ」と言ったのか。そのことについてぼくは、どんなことを考えたのでしょうか。

・実さんにきらわれたかな。

・実さんにわるいことしちゃったな。

・実さんは、もしかしたら「ぼく」のために教えなかったのかな。」



本時のワークシート

家へ帰ってから、実さんがなぜ、「なかよしだから、**なお**おしえられないよ」と言ったのか。そのことについて、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。

見せない

見せる

りゆう